

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	06	01	03	0409	都市農村交流推進事業	
総合計画	分野	しごと				
	政策	1-1	農林業の振興			
	施策	1	農業生産の支援			
目的	グリーン・ツーリズムの推進					
対象	農業体験等を受け入れる農業者・団体					
意図	受入による農家所得の向上及び交流人口の拡大					
事業概要						
○かわさき市民祭りへの出店経費を負担 (620,638円)						
○はなまきグリーン・ツーリズム推進協議会運営支援 (900,000円) ・受入農家の研修や教育旅行等の誘致活動などにかかる経費の一部を負担。 ・市内温泉施設や観光協会等との連携により、花巻型の教育旅行（温泉に宿泊して農家民泊するという流れ）が確立され、花巻の観光の一翼を担っている。						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	○ 実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
①	教育旅行等受入者数	人	計画	2,500	2,700	
			実績	1,782	1,997	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
①	農業体験料総額	千円	目標	13,000	10,560	
			実績	8,909	9,032	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
東日本大震災の影響は回復基調にあり、受入者数が年々増加しているが、高齢化や家庭環境の変化による受入農家数の減少に伴い、大人数の受入れや連続した週での受入が難しくなってきた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性 <input type="radio"/> 妥当である 見直し余地がある 妥当でない	市・農協・県・観光協会・森林組合・受入農家が連携し、花巻市の農村の自然や食・文化を活かしたグリーン・ツーリズムを推進する。
有効性	成果の向上余地 <input type="radio"/> 向上余地がある 向上余地がない	学校や旅行代理店を訪問し誘致活動を行う。 また、教育旅行の受入とともに、一般を対象としたメニューの充実を図る。
効率性	事業費・人件費の削減余地 事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	推進協議会は、農家を対象とした研修会の実施、学校や旅行代理店への情報発信を行っている。また、各地区の受け入れ団体の事務を市と農協が分担して行っており、受入農家探し、説明会や反省会の開催、資料作成・農家巡回対応等を行っているため削減余地はない。
公平性	受益と負担の適正化余地 受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	受入農家は広く募集しており、公平である。
総合評価		
交流人口を増やすため、学校や旅行代理店への誘致活動を続けた結果が表れているので、今後も続けていく。		
新規受入農家の獲得及び育成を行い、受入体制の整備を図る。		

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	06	01	03	0409	都市農村交流推進事業

単位：千円

		25年度 決算額(A)	26年度 決算額(B)	27年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費			1,521		1,521
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源		1,521		1,521

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部経営方針における目標
収益性の高い農畜産物の生産を進める。

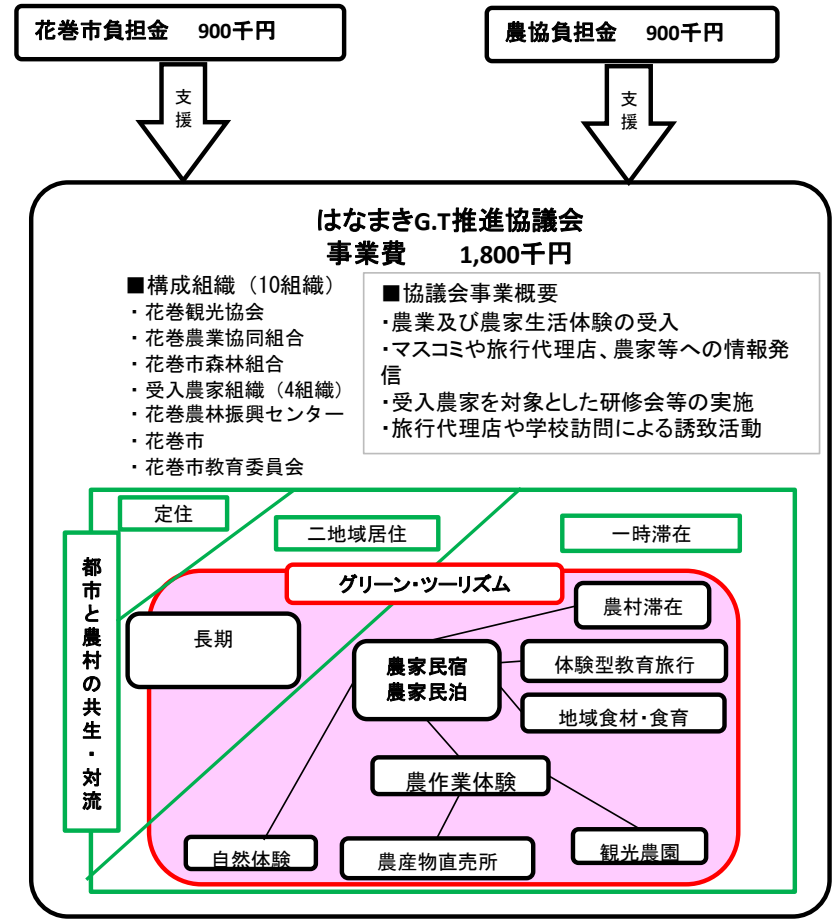
事業開始の背景・経緯
農家所得の向上と交流人口の拡大を図るため、農業体験型の滞在が有効な手段である。このことから、グリーン・ツーリズムを推進するための誘致活動や受入農家の資質向上のために、推進団体を支援することとした。

事業概要
○かわさき市民祭りへの出店経費を負担（620,638円）
○はなまきグリーン・ツーリズム推進協議会運営支援（900,000円）
・受入農家の研修や教育旅行等の誘致活動などにかかる経費の一部を負担。
・市内温泉施設や観光協会等との連携により、花巻型の教育旅行（温泉に宿泊して農家民泊するという流れ）が確立され、花巻の観光の一翼を担っている。

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等
・高齢化等、家族の環境の変化により受入が難しくなってきた農家が増えてきたため、新規受入農家の育成を行い、受入体制を整備する必要がある。
・教育旅行の受入とともに、一般を対象としたメニューの充実を図る必要がある。

《事業手法の詳細》

■ はなまきグリーン・ツーリズム推進協議会 900,000円



■ かわさき市民祭り出店 620,638円
昭和63年から川崎市との交流が始まり、本事業はその相互交流の一環。
出店に係る経費（旅費、小間料、運送用トラックの借上料等）を負担し、花巻市の農畜産物を川崎市でPRする。川崎市からは毎年8月に実施されるふれあいサマーキャンプに小中学生が3泊4日の日程で訪れ、ホームステイをはじめ、和紙すきやさき織体験等を行い交流している。